

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DS652	アメリカ文学特講II	2	1.5	1-5					《アメリカ文学と医学言説》 医学は科学であると同時に言説でもある。この授業は、スーザン・ソントグの『隠喩としての病い』とミシェル・フーコーの『狂気の歴史』『臨床医学の誕生』を足がかりとして、医学言説とアメリカ文学とのあいだの輻輳を論じる。 アメリカ文学以外を専攻する履修者を歓迎し、比較文学的視点を重視する。講師はアメリカ文学・アメリカ映画における医学言説について講義を行い、履修者はそれぞれの研究テーマにおける医学言説について研究発表を行う。	2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DS653	アメリカ文学特講III	1	1.5	1-5					《病いとしてのモダニティ》 モダニティはしばしばデカダンスという隠喩的病いとして語られ、モダニズムはある意味においてそのような隠喩的な病いの治療方法の探究でもあった。この授業では、病い・身体的障がい・知的障害の表象とモダニズムとのあいだの相関性について論じる。 アメリカ文学以外を専攻する履修者を歓迎し、比較文学的視点を重視する。講師はモダニズムと医学言説とのあいだの関わりについて講義を行い、履修者は各国文学における病いと障がいの表象について研究発表を行う。	2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DS654	アメリカ文学特講IV	1	1.5	1-5					《アメリカ文学における空間の詩学 I》 小説というジャンルの研究の焦点が、もっぱら登場人物と時間構造に向けられてきたのは無理からぬことである。しかし小説は真空のなかで展開するわけではなく、作品固有の空間を必ず構築し、それは文学と文学以外の言説とのあいだの結節点として機能する。この授業では空間の詩学という観点からの文学の分析の可能性を探る。 アメリカ文学以外を専攻する履修者を歓迎し、比較文学的視点を重視する。履修者はそれぞれの研究テーマにおける空間表象について研究発表を行う。	2023年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DS655	アメリカ文学特講V	1	1.5	1-5					《アメリカ文学における空間の詩学 II》 空間の詩学についての理論書を踏まえつつ、本授業では20世紀アメリカ文学と地政学との関わりについて、フォークナー、チャーヴァー、ギブソンの作品を論じる。 アメリカ文学以外を専攻する履修者を歓迎し、比較文学的視点を重視する。履修者はそれぞれの研究テーマにおける空間表象について研究発表を行う。	2023年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DS657	アメリカ文学特講VI	1	1.5	1-5					《戦後と「アメリカ」》 文学的主題としての〈戦後〉は、ホメーロスの『オデュッセイア』まで容易にさかのぼることができる。この授業では、文学が〈戦後〉を表象すると同時に、どのように〈戦後〉を構築してきたかを論じる。 アメリカ文学以外を専攻する履修者を歓迎し、比較文学的視点を重視する。講師は第二次世界大戦後の戦後構築と表象としての〈アメリカ〉との関わりについて講義を行い、履修者は各国文学における〈戦後〉ないし〈アメリカ〉の表象について研究発表を行う。	2021年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DS961	国際発表実習I(文学)	3	1.0	1-5	通年	応談		橋本 修	文学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DS962	国際発表実習II(文学)	3	1.0	1-5	通年	応談		橋本 修	文学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DS963	国際発表実習III(文学)	3	1.0	1-5	通年	応談		橋本 修	文学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。

02DSA05	文学研究発表演習A	2	1.0	1	春AB	木6		加藤 百合、齋藤 一、吉原 ゆかり	受講者全員が研究発表を行い、教員も参加してディスカッションを行うことで、文学・文化研究分野における論文執筆や学会発表の方法の基礎を実践的に学ぶ。発表者は、必ずしも完成された研究内容でない萌芽的な研究であっても、問題意識を鮮明にし、先行研究を概観しつつ当該研究の位置づけを示し、的確に対象テキストの分析をおこなったうえで有意義な考察を展開するよう努め、その成果を学術的な形式にのっとり発信する機会とする。他の受講者は、これらの側面を吟味し、研究の質の向上のための改善策を検討し、建設的な発言能力を磨く。	OABAE05と同一。 対面
02DSA06	文学研究発表演習B	2	1.0	1	秋AB	木6		加藤 百合、齋藤 一、吉原 ゆかり	受講者全員がより高度な学術的水準をめざして研究発表を行い、教員も参加してディスカッションを行うことで、文学・文化研究分野における学術論文執筆や学会発表の洗練方法を実践的に学ぶ。発表者は学位論文に結実することを念頭にいた研究発表をおこない、問題意識を深化させ、先行研究を批判的に概観しつつ当該研究の独自性を示し、的確かつ説得力ある対象テキスト分析をおこなったうえで学界に寄与する考察を展開するよう努め、その成果を完成度の高い学術的形式にのっとり発信する機会とする。他の受講者は、これらの側面を吟味し、研究の質の向上のための有効な改善策を検討し、建設的な発言能力を一層磨いて、学術交流のための資質を高める。	OABAE06と同一。 対面 教室は人社棟A520
02DSA07	文学理論研究(1A)	2	1.0	1・2	春AB	月3	人社 A207	齋藤 一	最新の文学理論を自ら応用し作品分析に利用できるまで習熟することを目標とする。そのために、最新の文学理論を理解するために不可欠な、すでに古典的となった欧米の文学理論書、エーリッヒ・アウエルパッハ『ミメシス』を、主に日本語訳を利用しながら講読することで、ヨーロッパ文学における現表象について学ぶ。	西暦偶数年度開講。 OABAE07と同一。 対面
02DSA08	文学理論研究(1B)	2	1.0	1・2	秋AB	月3	人社 A207	齋藤 一	最新の文学理論を自ら応用し作品分析に利用できるまで習熟することを目標とする。そのために、最新の文学理論を理解するために不可欠な、すでに古典的となった欧米の文学理論書、エドワード・サイード『オリエンタリズム』の英語原典(部分)を、日本語訳を参考にしながら講読することで、脱構築、ポストコロニアル批評の根本的発想を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 OABAE08と同一。 対面
02DSA09	文学理論研究(2A)	2	1.0	1・2					最新の文学理論を自ら応用し作品分析に利用できるまで習熟することを目標とする。そのために、最新の文学理論を理解するために不可欠な、すでに古典的となった欧米の文学理論書、エーリッヒ・アウエルパッハ『ミメシス』(日本語訳上・下巻)などを、主に日本語訳を利用しながら講読することで、文学における「リアル」とは何かということについて学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OABAE09と同一。 対面
02DSA11	文学理論研究(2B)	2	1.0	1・2					最新の文学理論を自ら応用し作品分析に利用できるまで習熟することを目標とする。そのために、最新の文学理論を理解するために不可欠な、すでに古典的となった欧米の文学理論書、フレドリック・ジェイムソン『政治的無意識』の日本語訳などを、英語原典を参考にしながら講読することで、構造主義詩学とマルクス主義批評の根本的発想を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OABAE11と同一。 対面
02DSA12	文学交流論演習(1A)	2	1.0	1・2	春AB	火3		吉原 ゆかり	広義でのテキスト作品(文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む)を通じた文化交流の諸相を知るために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキスト作品を精読する。学術的レベルでのテキスト作品精読に不可欠な、周辺資料の調査方法、研究資料調査方法を習得する。植民地出身者が宗主国語で書いた作品や、テキストで用いられる言語を第一言語としない人により書かれた作品、高級文化とポピュラー・カルチャーを交錯させる作品など、複数の文化・言語・地域を交流・交差させる作品を取り上げる。	使用言語は、日本語及び英語。 西暦偶数年度開講。 OABAE12と同一。 対面
02DSA13	文学交流論演習(1B)	2	1.0	1・2	秋AB	月2		吉原 ゆかり	広義でのテキスト作品(文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む)を通じた文化交流についての理解を深めるために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキストの精読を行う。学術的レベルでのテキスト作品精読に不可欠な、周辺資料の調査方法、研究資料調査方法、研究倫理を習得する。ジェンダー論、ポストコロニアル理論をとくに重視する。LGBTQ、女性、人種的マイノリティなど、社会的弱者によって/ついて書かれたテキスト作品を重視する。	使用言語は、日本語及び英語。 西暦偶数年度開講。 OABAE13と同一。 対面

02DSA14	文学交流論演習 (2A)	2	1.0	1・2					広義でのテキスト作品(文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む)を通じた文化交流の諸相を知るために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキスト作品に関する、研究論文(日本語・英語)の読解演習を行う。学術論文を読解し、論理構成を理解し、自分の研究に応用するための基礎力を養成する。研究論文読解の前提となる、対象テキスト作品の精読を合わせて行う。ジェンダー、階級、マイノリティ表象に注目した、複数の文化・言語・地域を交流・交差させる作品について書かれた学術論文を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAE14と同一。 対面
02DSA15	文学交流論演習 (2B)	2	1.0	1・2					広義でのテキスト作品(文学テキスト作品、図像・映像を併用した作品を含む)を通じた文化交流の諸相に関する理解を深めるために、日本語もしくは英語で書かれた、近現代テキスト作品に関する、学術・研究論文(日本語・英語)の読解演習を行う。学術論文を読解し、論理構成を理解し、自分の研究に応用するための応用力を養成する。研究論文読解の前提となる、対象テキスト作品の精読スキル育成を行う。ジェンダー、階級、マイノリティ表象、文化序列に注目した、複数の文化・言語・地域を交流・交差させる作品について書かれた学術論文を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 OABAE15と同一。 対面
02DSA16	比較文学研究 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	木3		加藤 百合	比較文学のひとつの方法論として翻訳研究を行う。明治時代の言説(文学論・評論・文芸)を当時の文脈で検証する力をつけることを目標として同時代資料と併せて読み込む訓練を行う。基礎知識となる著作の講読を担当を決めて行う。	西暦偶数年度開講。 OABAE16と同一。
02DSA17	比較文学研究 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	木3		加藤 百合	明治時代の一次資料を丁寧に読む。近代文学を歴史的に位置づけながら追究する。まずは二次資料による現在の解釈を離れて、文献を初出の形で読むことによる研究方法を学ぶ。受講者の知識の領域や興味範囲を勘案してより具体的な計画をたてる。自らが研究している領域のなかから翻訳・翻案に関わるテーマを見出して発表を準備したうえで、履修者で討論・検討を行う。	西暦偶数年度開講。 OABAE17と同一。 発表、個別指導などを 対面で実施。
02DSA18	比較文学研究 (2A)	2	1.0	1・2					比較文学のひとつの基本的研究としてジャンル研究を行う。明治時代の言説(文学論・評論・文芸)を当時の文脈で検証する力をつけることを目標として同時代資料と併せて読み込む訓練を行う。基礎知識となる著作の講読を担当を決めて行う。	西暦奇数年度開講。 OABAE18と同一。 対面 人社棟A520
02DSA19	比較文学研究 (2B)	2	1.0	1・2					明治時代の一次資料を丁寧に読む。近代文学を歴史的に位置づけながら追究する。近代文学を歴史的に、当時のままの形(初出形態かそれを代替するもの)で丁寧に読み、時代状況のなかに位置づける訓練をする。必要な資料と適切なテキストを準備しそれを読む。基本的に演習形式で行なう。自らが研究している領域のなかから外国文学受容とジャンルに関わるテーマを見出して発表を準備したうえで、履修者で討論・検討を行う。	西暦奇数年度開講。 OABAE19と同一。 対面 人社棟A520
02DSA21	古典古代学研究 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	水1		秋山 学	964(康保元)年に勤学会を創始したことで知られる慶滋保胤(寂心;?-1002)の著書『日本往生極楽記』(986年以前に成立)を読む。兼明親王(914-987)による加筆部分を含むが、大部分は永観年間(983-985)に成ったものと思われる。源信(942-1017)の『往生要集』や『本朝文粹』などに載る保胤の活動・詩文、保胤の弟子・寂照(?-1034)の活動等にも視野を保持しておきたい。	西暦偶数年度開講。 OABAE21と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
02DSA22	古典古代学研究 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	水1		秋山 学	夏学期に引き続き、964(康保元)年に勤学会を創始したことで知られる慶滋保胤(寂心;?-1002)の著書『日本往生極楽記』(986年以前に成立)を読む。源信(942-1017)の『往生要集』や『本朝文粹』などに載る保胤の活動・詩文、保胤の弟子・寂照(?-1034)の活動等にも視野を保持しておきたい。	西暦偶数年度開講。 OABAE22と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
02DSA23	古典古代学研究 (2A)	2	1.0	1・2					旧約聖書研究。翻訳受容史を含めた旧約聖書テキストについて、最近の研究動向を注視しながら文献学的に検討する。	西暦奇数年度開講。 OABAE23と同一。 対面
02DSA24	古典古代学研究 (2B)	2	1.0	1・2					旧約聖書研究。翻訳受容史を含めた旧約聖書テキストについて、最近の研究動向を注視しながら文献学的に検討する(春学期の継続)。	西暦奇数年度開講。 OABAE24と同一。 対面
02DSA25	古典古代学演習 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	金1		秋山 学	Under the general theme of the "Grace in the Psalms", we would like to do a philologico-theological reading of the selected Psalms in the frame of Online-OnDemand.	西暦偶数年度開講。 OABAE25と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)

02DSA26	古典古代学演習 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	金1		秋山 学	Under the general theme of the "Grace in the Psalms", we would like to do a philologico-theological reading of the selected Psalms in the frame of Online-OnDemand.	西暦偶数年度開講。 OABAE26と同一。 オンライン(オンデマンド型)
02DSA27	古典古代学演習 (2A)	2	1.0	1・2					Under the general theme of the "Sheol and Grace in the Psalms", we would like to do a philological reading of the selected Psalms in the frame of Online-OnDemand.	西暦奇数年度開講。 OABAE27と同一。 英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
02DSA28	古典古代学演習 (2B)	2	1.0	1・2					Under the general theme of the "Sheol and Grace in the Psalms", we would like to do a philological reading of the selected Psalms in the frame of Online-OnDemand.	西暦奇数年度開講。 OABAE28と同一。 英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
02DSA34	日本中古文学研究 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	木2	人社 A207	吉森 佳奈子	注釈史のなかで、注釈書が『源氏物語』を離れて生きていった実態を、中世、近世に注目し、あきらかにすることをこころみる。あわせて、伝統的な文献学の方法が、通説のように『源氏物語』注釈書に無条件にあてはめ用いられるかについて問い、従来、価値のないものとして顧みられることの少なかった近世末期の転写本を生んだ状況を具体的に問う。	西暦偶数年度開講。 OABAE34と同一。 対面
02DSA35	日本中古文学研究 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	木2	人社 A207	吉森 佳奈子	『源氏物語』注釈史研究。 文学史という視点で『源氏物語』注釈史を顧み、中古、中世および近世の教養の基盤について考察する知識、技術を得る。注釈史、享受史がとざれることがなかったという点で『源氏物語』は、物語作品として特異な存在といえる。そのことに留意し、『源氏物語』を文学史のなかで捉え直すことをこころみる。その過程でとくに、『源氏物語』の諸本について、その注釈史と不可分の問題をもつことについて具体的に考察する。	西暦偶数年度開講。 OABAE35と同一。 対面
02DSA36	日本中古文学研究 (2A)	2	1.0	1・2					平安時代の散文作品をとりあげる。とくに注釈研究の基本を身につける。	西暦奇数年度開講。 OABAE36と同一。 対面
02DSA37	日本中古文学研究 (2B)	2	1.0	1・2					平安時代の散文作品をとりあげる。注釈研究の問題の立て方を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OABAE37と同一。 対面
02DSA38	日本近代文学研究 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	木4		馬場 美佳	日本近代文学作品について、歴史的・文化的背景を意識し、同時代的・即時的な文脈における実証的な観点からの研究を目指す。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査に基づいた作品等の理解について各自発表を行うこととする。	西暦偶数年度開講。 OABAE38と同一。
02DSA39	日本近代文学研究 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	木4		馬場 美佳	日本近代文学作品について、歴史的・文化的背景を意識し、同時代的・即時的な文脈における実証的な観点からの研究を目指す。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査に基づいた作品等の理解について各自発表を行うこととする。	西暦偶数年度開講。 OABAE39と同一。 対面
02DSA41	日本近代文学研究 (2A)	2	1.0	1・2					日本近代文学作品について、歴史的・文化的背景を意識し、同時代的・即時的な文脈における実証的な観点からの研究を目指す。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査に基づいた作品等の理解について各自発表を行うこととする。	人社A101 西暦奇数年度開講。 OABAE41と同一。 対面
02DSA42	日本近代文学研究 (2B)	2	1.0	1・2					日本近代文学作品について、歴史的・文化的背景を意識し、同時代的・即時的な文脈における実証的な観点からの研究を目指す。授業は演習形式で行い、語釈・注釈などの調査に基づいた作品等の理解について各自発表を行うこととする。	西暦奇数年度開講。 OABAE42と同一。 対面 人社棟A520
02DSA43	イギリス文学研究 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	火5		佐野 隆弥	この授業は、(1)シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技能の習得、(2)先行研究のサーヴェイカの構築、(3)論文作成技術の習得、の3点を到達目標としている。具体的には、OED等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この2点を軸として、Titus Andronicusを対象にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を議論を通して涵養する。	西暦偶数年度開講。 OABAE43と同一。 対面

02DSA44	イギリス文学研究 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	火5	佐野 隆弥	この授業は、(1)シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の発展的技術の習得、(2)先行研究のサーヴェイカの構築、(3)論文作成技術の習得、の3点を到達目標としている。具体的には、OED等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この2点を軸として、Titus Andronicusを対象にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養した上で、オリジナリティのある論文作成のスキルを議論を通して習得させる。	西暦偶数年度開講。 OABAE44と同一。 対面
02DSA45	イギリス文学研究 (2A)	2	1.0	1・2				この授業は、(1)シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技術の習得、(2)先行研究のサーヴェイカの構築、(3)論文作成技術の習得、の3点を到達目標としている。具体的には、OED等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この2点を軸として、Julius Caesarを対象にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を議論を通して涵養する。	西暦奇数年度開講。 OABAE45と同一。 対面
02DSA46	イギリス文学研究 (2B)	2	1.0	1・2				この授業は、(1)シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の発展的技術の習得、(2)先行研究のサーヴェイカの構築、(3)論文作成技術の習得、の3点を到達目標としている。具体的には、OED等に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本授業では、この2点を軸として、Julius Caesarを対象にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養した上で、オリジナリティのある論文作成のスキルを議論を通して習得させる。	西暦奇数年度開講。 OABAE46と同一。 対面
02DSA47	英語圏文学文化研究 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	木3	TSAI TSUNG-HAN	This course focuses on the field of global Anglophone literatures and cultures, analysing texts produced both at the centre and the peripheries of Britain's imperial enterprises. The primary aims are twofold: to familiarize students with a selection of writers and their works and to sharpen students' alertness to the historical, socio-political, and cultural contexts of a literary text. We will ask how these works illuminate the forces that have influenced, and continue to shape, the globalized yet unequal world today. Special attention will be paid to the plural histories, conceptions, relations, networks, and hierarchies of race and gender. In the first semester, the course aims to introduce students to a range of early twentieth-century texts and to develop their understanding of the influences and debates that shaped the concept of 'Anglophone'.	西暦偶数年度開講。 OABAE47と同一。 英語で授業。 対面

02DSA48	英語圏文学文化研究 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	木3		TSAI TSUNG-HAN	This course focuses on the field of global Anglophone literatures and cultures, analysing texts produced both at the centre and the peripheries of Britain's imperial enterprises. The primary aims are twofold: to familiarize students with a selection of writers and their works and to sharpen students' alertness to the historical, socio-political, and cultural contexts of a literary text. We will ask how these works illuminate the forces that have influenced, and continue to shape, the globalized yet unequal world today. Special attention will be paid to the plural histories, conceptions, relations, networks, and hierarchies of race and gender. In the second semester, the course is designed to expose students to a range of late twentieth-century writers, moving between a detailed focus on highlighted key works and a wider perspective on the tension between local and global.	西暦偶数年度開講。 OABAE48と同一。 英語で授業。 対面
02DSA52	フランス文学研究 (1A)	1	1.0	1・2	春AB	金5	人社 A205	小川 美登里	20世紀以降のフランス文学を思想的・文化的背景とともに考える。文学におけるジャンルの解体と再構築 (ロマン、レシ、詩、エッセイなど)、あるいは哲学、絵画、音楽との交流を視野に入れながら、現代文学の特徴について考える。	西暦偶数年度開講。 OABAE52と同一。 対面 (オンライン併用型)
02DSA53	フランス文学研究 (1B)	1	1.0	1・2	秋AB	水3	人社 A205	小川 美登里	フランス文学のテキストを精読し、分析、解釈する技術を身につける。あつかう作品はおもに20世紀以降の現代小説。	西暦偶数年度開講。 OABAE53と同一。 対面 (オンライン併用型)
02DSA54	フランス文学研究 (2A)	2	1.0	1・2					20世紀以降、フランス文学は大きな発展をみた。地理的広がり (北アフリカやカリブ海など、フランス語圏文学の射程は大きく広がった) のみならず、複数の言語、複数の文化背景をもつ作家たちも排出された。その一方で、文学そのものの定義も広がった。言語、哲学、イメージ、音楽を自由に行き来するフィクションや批評も多く生み出された。本講義ではとくに音楽/言語/文化の関係に焦点を当てる。	西暦奇数年度開講。 OABAE54と同一。 対面 (オンライン併用型)
02DSA55	フランス文学研究 (2B)	2	1.0	1・2					20世紀以降、フランス文学は大きな発展をみた。本講義では言語表象やフィクションの意味を問い直しながら、小説作品を分析する。対象となるのは20世紀・21世紀を代表する小説作品であり、読解を通しながら具体的な分析方法を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 OABAE55と同一。 対面 (オンライン併用型)
02DSA56	フランス文学演習 (1A)	2	1.0	1・2	春AB	木3	人社 B410	増尾 弘美	ブルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた文学作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わっていくのかについて考察する。具体的な作家としてはラシーヌ、セヴィニエ夫人、サン=シモン等を取り上げるが、サン=シモンに関してはブルースト自身による模倣も存在するので、それも考察対象とする。	西暦偶数年度開講。 OABAE56と同一。 対面
02DSA57	フランス文学演習 (1B)	2	1.0	1・2	秋AB	木3	人社 B410	増尾 弘美	ブルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた文学作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わっていくのかについて考察する。具体的な作家としてはバルザック、フローベール、サント=ブーヴ等を取り上げるが、ブルースト自身による彼らの模倣も射程に入れながら、模倣や批評がどのように小説へと変貌を遂げたのかについても考察する。	西暦偶数年度開講。 OABAE57と同一。 対面
02DSA58	フランス文学演習 (2A)	2	1.0	1・2					ブルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた美術作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わっていくのかについて考察する。画家エルステールについてはもとより、美術愛好家スワンに関しては現実の人間を絵画中の人物と同一視するという偶像崇拜の傾向があるので、それも芸術作品制作を阻むものという位置付けで見えていく。	西暦奇数年度開講。 OABAE58と同一。 対面

02DSA59	フランス文学演習 (2B)	2	1.0	1・2					ブルーストの『失われた時を求めて』を題材に、この作品で取り上げられた音楽作品が語り手によってどのように批評され、また登場人物にどのように語られているか、特定の人物による批評がどのような意味をもつか、さらに物語の進行とどのように関わるのかについて考察する。『ペレアスとメリザンド』のドビュッシー、19世紀フランスでワグネル主義の興隆を見たワーグナー、そして後期弦楽四重奏曲が流行ったベートーヴェンを主な考察対象とする。	西暦奇数年度開講。 OABAE59と同一。 対面
02DSA61	Transnational Literature (1)	2	1.0	1・2	春AB	火4	人社 A207	ヘーゼルハウス、ヘラト	“Transnational Literary Studies” does not only comprise literature (and other media) that is produced across borders and in various languages (including translation), it also analyzes the common multi-lingual and multi-cultural basis inherent in aesthetic productivity. The focus point of this course is on text, author, genre, period, aesthetics, media, methods or translation, depending on the needs and interests of its participants and the research focus of the instructor.	西暦偶数年度開講。 OABAE61と同一。 英語で授業。
02DSA62	Applied Humanities (1)	2	1.0	1・2	秋AB	火4	人社 A207	ヘーゼルハウス、ヘラト	The study of “Applied Humanities” focuses on the interface between traditional literary studies and society. In this course the focus will be on humanities’ contribution to society and on career strategies. Students will have the opportunity to discuss their own approaches and design their own academic profiles. The course will also include analysis and discussion of literary and theoretical texts in an “Applied Humanities” perspective and introduce the relevant methodology.	西暦偶数年度開講。 OABAE62と同一。 英語で授業。 対面
02DSA63	Transnational Literature (2)	2	1.0	1・2					This course focuses on “Relational Studies in Literature” and analyzes and discusses how texts connect in literature, culture and politics in an international framework. The course will be based on the analysis and interpretation of interconnected primary literary texts proposed by the instructor or participants. It will also introduce and discuss various conceptualizations of “intertextuality”, “relationality”, “multilingualism” and translation”.	西暦奇数年度開講。 OABAE63と同一。 英語で授業。 オンライン(同時双方向型)
02DSA64	Applied Humanities (2)	2	1.0	1・2					The study of “Applied Humanities” answers to social and intellectual needs of society and is especially dedicated to the understanding and solution-finding processes of global and local crises. The course will focus on topical material (especially literary publications) concerning long-term crises or acute disaster. Students will have the opportunity to do original literary research connected to the course’s main topic.	西暦奇数年度開講。 OABAE64と同一。 英語で授業。 オンライン(同時双方向型)
02DSA65	中国文学研究(1A)	2	1.0	1・2	春AB	木5	人社 A620	稀代 麻也子	論理的な思考力を鍛えて知の活用力をつけるために、120巻本『文選』の精読を通してその特徴を把握することが当該授業の到達目標である。具体的には、巻43所収の詩・巻56所収の挽歌・巻63所収の騷・巻71所収の教・巻79所収の彈事・巻91所収の序・巻113所収の誄・巻47所収の詩・巻61所収の雜擬を読む。独創的な構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。	西暦偶数年度開講。 OABAE65と同一。 対面
02DSA66	中国文学研究(1B)	2	1.0	1・2	秋AB	木5	人社 A620	稀代 麻也子	論理的な思考力を鍛えて知の活用力をつけるために、鈔本で『文選』を読み、諸本の注釈と比較検討をすることが当該授業の到達目標である。具体的には、巻47所収の詩・巻56所収の雜歌詩・巻66所収の騷・巻71所収の策秀才文・巻85所収の書・巻93所収の頌・巻116所収の碑・巻48所収の詩・巻68所収の七を読む。独創的な構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。	西暦偶数年度開講。 OABAE66と同一。 対面

02DSA67	中国文学研究(2A)	2	1.0	1・2				論理的な思考力を鍛えて知の活用力を付けるために、集注本で『文選』を読み、各注の特徴を確認することが当該授業の到達目標である。具体的には、巻48所収の詩・巻59所収の雜詩・巻68所収の七・巻73所収の表・巻88所収の檄・巻94所収の贊・巻56所収の楽府・巻66所収の騷・巻98所収の史論を読む。独自の構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。	西暦奇数年度開講。 08BAE67と同一。 対面
02DSA68	中国文学研究(2B)	2	1.0	1・2				論理的な思考力を鍛えて知の活用力を付けるために、『唐詩文選集注集存』を読み、補注をつけることが当該授業の到達目標である。具体的には、巻56所収の楽府・巻61所収の雜擬・巻71所収の令・巻79所収の彈事・巻88所収の雜・巻98所収の史論・巻59所収の雜詩・巻85所収の書・巻91所収の序を読む。独自の構想力を身につけ、知を共創する能力を養うため、授業は、演習担当者を決めて報告を求め、討議を行いながら進める。	西暦奇数年度開講。 08BAE68と同一。 対面
02DSB01	文学論文演習(1A)	2	2.0	1	春ABC	随時	馬場 美佳, 増尾弘美, 佐野 隆弥, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 加藤百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代麻也子, 吉原 ゆかり	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域の立場から、テーマ設定等、主として最初段階の研究方法について議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。	08BAE11と同一。 対面、オンライン(同時双方向型)
02DSB02	文学論文演習(1B)	2	2.0	1	秋ABC	随時	馬場 美佳, 増尾弘美, 佐野 隆弥, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 吉原ゆかり, 加藤百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代麻也子	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域の立場から、研究資料の選択等、主として初期段階の研究方法についての議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。	08BAE12と同一。 対面、オンライン(同時双方向型)
02DSB03	文学論文演習(2A)	2	2.0	2	春ABC	随時	馬場 美佳, 増尾弘美, 佐野 隆弥, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 加藤百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代麻也子, 吉原 ゆかり	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域の立場から、資料蒐集等、主として中期段階前半の研究方法について議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。	08BAE13と同一。 対面、オンライン(同時双方向型)
02DSB04	文学論文演習(2B)	2	2.0	2	秋ABC	随時	馬場 美佳, 増尾弘美, 佐野 隆弥, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 吉原ゆかり, 加藤百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代麻也子	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域の立場から、資料読解・分析等、主として中期段階後半の研究方法について議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。	08BAE14と同一。 対面、オンライン(同時双方向型)
02DSB05	文学論文演習(3A)	2	2.0	3	春ABC	随時	馬場 美佳, 増尾弘美, 佐野 隆弥, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 吉原ゆかり, 加藤百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代麻也子	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域・他研究領域の両方の立場から、論文の構成等、主として後期段階の研究方法について議論を行い、それぞれの論文執筆の準備に資する。	08BAE15と同一。 対面、オンライン(同時双方向型)
02DSB06	文学論文演習(3B)	2	2.0	3	秋ABC	随時	馬場 美佳, 増尾弘美, 佐野 隆弥, ヘーゼルハウス, ヘラト, 秋山 学, 吉森 佳奈子, 吉原ゆかり, 加藤百合, 小川 美登里, 齋藤 一, 稀代麻也子	文学研究諸領域のいずれかにおいて博士論文を執筆しようとして計画している大学院生に対して、当該研究領域・他研究領域の両方の立場から、総合的に博士論文の完成に向けた議論を行う。	08BAE16と同一。 対面、オンライン(同時双方向型)



専門科目(言語学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DT411	日本語文法研究(1A)	1	1.5	1-5					日本語の意味論・語用論における、主として1980年代・現在までの研究からいくつかのトピックを選び検討・議論する。初回受講者の希望にもよるが、導入としては有田節子2015を取り上げる予定。	2021年度より4年おきに開講。
02DT412	日本語文法研究(1B)	1	1.5	1-5					現代日本語・古典日本語の意味論・語用論におけるトピックを、史的变化にも留意しながら検討する。初回受講者の希望にもよるが、導入としては衣畑智秀2014を扱う予定。	2021年度より4年おきに開講。
02DT413	日本語文法研究(2A)	1	1.5	1-5					日本語の意味論・語用論的研究の方法論について、具体的なケースワークの中で検討する。受講者の希望にもよるが、導入としては本多啓2016と関連論文を読む。	2022年度より4年おきに開講。
02DT414	日本語文法研究(2B)	1	1.5	1-5					古典日本語を含む、日本語文法論の検討。受講者の希望にもよるが、導入としては金水2015とその周辺論文を読む予定。	2022年度より4年おきに開講。
02DT415	日本語文法研究(3A)	1	1.5	1-5					現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。	2023年度より4年おきに開講。
02DT416	日本語文法研究(3B)	1	1.5	1-5					現代日本語・古典日本語の文法論で近年扱われているトピックについて議論する。受講者のオリジナルな論考を提示してもらうこともある。	2023年度より4年おきに開講。
02DT419	日本語文法研究(5A)	1	1.5	1-5					現代日本語の主として意味論・語用論・語彙論についての研究動向と研究課題について検討する。受講者による発表も行う。	2020年度より4年おきに開講。
02DT420	日本語文法研究(5B)	1	1.5	1-5					現代日本語、古典日本語の意味論、語用論について、研究史を含めて検討する。受講者による発表も行う。	2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT441	現代日本語研究(1A)	1	1.5	1-5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。この授業は、言語学的な追究とともに、それが現在の社会的な課題を解決するのにどのように寄与するのかについての検討も行う。	2021年度より4年おきに開講。
02DT442	現代日本語研究(1B)	1	1.5	1-5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について、日本語学の観点から検討する。この授業では、従来の言語学的知見が、このような課題に対しどのように寄与するか、また、解決のためにはどのような研究が望まれているのか等、複合的融合的課題を解決するための言語学的アプローチとは何かを考えていく。	2021年度より4年おきに開講。
02DT443	現代日本語研究(2A)	1	1.5	1-5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。言語学的な追究と社会的な課題解決との関わりについて検討する。	2022年度より4年おきに開講。
02DT444	現代日本語研究(2B)	1	1.5	1-5					現代日本語について、さまざまな角度から検討を加える。表現や理解に関わる複合な現象について、日本語学の観点から検討する。従来の言語学的知見が、このような課題に対しどのように寄与するか、また、解決のためにはどのような研究が望まれているのか等、複合的融合的観点から検討する。	2022年度より4年おきに開講。
02DT445	現代日本語研究(3A)	1	1.5	1-5					現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析するとともに、言語教育分野における課題と言語研究との関わりについて検討していく。	2023年度より4年おきに開講。
02DT446	現代日本語研究(3B)	1	1.5	1-5					現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法教育と文法研究の関わりについて検討していく。	2023年度より4年おきに開講。
02DT449	現代日本語研究(5A)	1	1.5	1-5					現代日本語に見られる現象を題材に観察し分析していくとともに、外国語との対照について検討していく。	2020年度より4年おきに開講。
02DT450	現代日本語研究(5B)	1	1.5	1-5					現代日本語に見られる種々の言語現象について分析するとともに、文法研究の翻訳論への寄与について検討していく。	2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT470	日本語学特講(1)	1	1.0	1-5					社会言語学的な言語調査の方法論をテーマとする。質問調査法とコーパス検索法を中心に、いろいろなテーマで言語調査を企画するときどういう点に配慮すればいいか、受講者と一緒に考えたい。	2021年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT474	日本語学特講(5)	1	1.0	1-5						2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT521	英語意味論演習(1A)	2	1.5	1-5					認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知と構文の意味機能の関係を扱った論文を中心に行なう。	2021年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)

02DT522	英語意味論演習(1B)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、言語使用と構文の意味機能の関係を扱った論文を中心にこなう。	2021年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT523	英語意味論演習(2A)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心にこなう。	2022年度より4年おきに開講。
02DT524	英語意味論演習(2B)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心にこなう。	2022年度より4年おきに開講。
02DT525	英語意味論演習(3A)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心にこなう。	2023年度より4年おきに開講。
02DT526	英語意味論演習(3B)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心にこなう。	A101 2023年度より4年おきに開講。
02DT529	英語意味論演習(5A)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、言語と認知の関係を扱った論文を中心にこなう。	2020年度より4年おきに開講。
02DT530	英語意味論演習(5B)	2	1.5	1 - 5				認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、文法と言語使用の関係を扱った論文を中心にこなう。	2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT531	英語統語論演習(1A)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、情報構造に関する論文を中心にこなう。	2021年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT532	英語統語論演習(1B)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、カートグラフィ理論に関する論文を中心にこなう。	2021年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT533	英語統語論演習(2A)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、併合に関する論文を中心にこなう。	2022年度より4年おきに開講。
02DT534	英語統語論演習(2B)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、ラベリングに関する論文を中心にこなう。	2022年度より4年おきに開講。
02DT535	英語統語論演習(3A)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、関係節に関する論文を中心にこなう。	2023年度より4年おきに開講。
02DT536	英語統語論演習(3B)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、数量表現に関する論文を中心にこなう。	2023年度より4年おきに開講。
02DT539	英語統語論演習(5A)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、品詞論に関する論文を中心にこなう。	2020年度より4年おきに開講。
02DT540	英語統語論演習(5B)	2	1.5	1 - 5				生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、修飾構造に関する論文を中心にこなう。	2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT541	英語学特講(1A)	1	1.5	1 - 5				英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および発信力の強化を図る。	2021/4/8 開講中止決定 2021年度より4年おきに開講。

02DT542	英語学特講(1B)	1	1.5	1 - 5						英語学の文献を教材として用いながら、特に修士論文執筆前の院生が英語学を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の強化を図る。	2021/4/8 開講中止決定 2021年度より4年おきに開講。
02DT543	英語学特講(2A)	1	1.5	1 - 5						英語学を進めるうえで必要な基礎知識、英語表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎力の充実および実践的な発信力の強化を図る。	2022年度より4年おきに開講。
02DT544	英語学特講(2B)	1	1.5	1 - 5						英語で書かれた認知言語学の文献の輪読を通して、修士論文執筆前の院生が、英語学を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。	2022年度より4年おきに開講。
02DT545	英語学特講(3A)	1	1.5	1 - 5						英語学を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、基礎的な表現力・発信力の充実を図る。	2023年度より4年おきに開講。
02DT546	英語学特講(3B)	1	1.5	1 - 5						英語学の文献を教材として用いながら、修士論文執筆以前の大学院生が英語学を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の強化を図る。	2023年度より4年おきに開講。
02DT549	英語学特講(5A)	1	1.5	1 - 5						英語学の文献を教材として用いながら、英語学を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、考えをまとめて発信する能力の充実を図る。	文芸・言語専攻英語学領域2年生に履修を制限する。 2020年度より4年おきに開講。
02DT550	英語学特講(5B)	1	1.5	1 - 5						英語学の文献を教材として用いながら、英語学を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力と問題解決への応用力の強化を図る。	文芸・言語専攻英語学領域2年生に履修を制限する。 2020年度より4年おきに開講。 オンライン(同時双方向型)
02DT821	国際発表実習I(言語学)	3	1.0	1 - 5	通年	応談		橋本 修		言語学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DT822	国際発表実習II(言語学)	3	1.0	1 - 5	通年	応談		橋本 修		言語学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DT823	国際発表実習III(言語学)	3	1.0	1 - 5	通年	応談		橋本 修		言語学分野における博士論文を執筆する過程でその研究成果の一部をもって、海外における学会発表などを行うことで、研究における国際的視野を獲得することを目的とする。	指導教員または研究発表の指導を行う教員と事前に相談のうえ、履修登録をすること。
02DT901	歴史言語学A	1	1.0	1・2	春AB	火5	1C401	池田 潤		世界のさまざまな言語を例に、伝統的な歴史言語学の方法論の基礎を学ぶ。具体的には、(1)歴史言語学の研究史、(2)音法則[概論]、(3)音法則[合流と分裂]、(4)音法則[同化]、(5)音法則[弱化]、(6)音法則[その他の変化]、(7)借用、(8)類推、(9)内的再建、(10)比較による祖語の再建を論じる。毎回の授業では講義を行った上で、それをふまえて受講生が自ら例題を通時的に分析してみることにより、言語変化の諸相、規則性、要因等に対する理解を深めていく。	OABAG10と同一。 対面
02DT902	歴史言語学B	1	1.0	1・2	秋AB	火5	人社A205	池田 潤		世界の様々な言語の事例を観察しながら、形態変化、統語変化、言語接触などのテーマを中心に、歴史言語学の基礎を学ぶ。	OABAG11と同一。 対面 状況によってはオンラインに変更する可能性がある。
02DT903	生成統語論A	2	1.0	1・2	春AB	月4		島田 雅晴, 山村 崇斗		チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいれた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に句構造、形式素性、移動現象にかかわる問題に焦点をあてる。	西暦偶数年度開講。 OABAG12と同一。
02DT904	生成統語論B	2	1.0	1・2	秋AB	月4		島田 雅晴, 山村 崇斗		チョムスキーに始まり「普遍文法」を視野にいれた生成統語論の観点から言語現象を考察する。具体的には、英語および日本語を中心とするいくつかの言語から題材をもとめ、生成統語論的な分析の実践例を数多く見ることを通して、研究の目的および手法を理解し、自らが生成統語論の立場で新たな文法現象の発掘、分析、議論ができるようになることを目指す。この授業では、主に構造格、束縛とコントロール、省略現象にかかわる問題に焦点をあてる。	西暦偶数年度開講。 OABAG13と同一。

02DT905	認知意味論A	2	1.0	1・2						言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、言語と認知の関係に関わる様々な語彙・構文現象に焦点をあてる。	西暦奇数年度開講。 0ABAG14と同一。 対面 人社A520
02DT906	認知意味論B	2	1.0	1・2						言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら認知意味論的な観点から考察する。認知意味論的観点というのは、言語が語る意味の世界は客体世界そのものではなく、人間の目を通した世界であり、したがって言語の意味を考えるときには、人間がものごとをどのように理解し、経験するかという視点が不可欠とするものである。この授業では、特に、文法と語用論の関係や言語使用に関わる様々な言語現象に焦点をあてる。	西暦奇数年度開講。 0ABAG15と同一。 対面 人社棟A520
02DT907	対照言語学A	1	1.0	1・2	春AB	木6	1B402	宮腰 幸一		このコースは、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目標とする。まず、主に日本語と英語の身近な具体例を出発点に、いくつかの事例研究の概観・検討を通して対照言語学の射程・目標・方法・意義・成果などを学びながら、受講者それぞれが自分のテーマで対照言語学的研究を試み、実践的な観察・分析・実証・立論能力を養う。その後、各受講者に研究成果を順番に発表してもらい、その内容についてクラス全員で議論する。基本的に、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進めるが、その割合は受講者の希望や進捗状況に応じて調整する。	0ABAG16と同一。 対面
02DT908	対照言語学B	1	1.0	1・2	秋AB	木6	1B402	宮腰 幸一		春学期の対照言語学Aに引き続き、対照言語学の基礎的知識と実践的研究能力の修得を目指し、前半は講義形式、後半は演習/セミナー形式で授業を進める。	0ABAG17と同一。 対面
02DT909	音韻論A	1	1.0	1・2	春AB	火5	人社A620	那須 昭夫		言語の音声・音韻に関する研究について理解するうえで必要とされる専門的な知識および技術を身につけることを目標とする。記述・理論にわたる音韻論の基礎的な概念および知見について、論文講読を通じて理解を深めるとともに、日本語を中心とする音韻現象の分析事例を学びながら、音韻研究の方法についての理解を図る。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討議を通じて合理的な音韻分析のあり方について考察する。	西暦偶数年度開講。 0ABAG20と同一。 対面 対面を原則とするが、状況次第でオンライン(同時双方向)に変更することもある。
02DT910	音韻論B	1	1.0	1・2	秋AB	火5	人社A620	那須 昭夫		音韻論の専門的な事項の理解に基づいて音韻分析の手法を身につけることを目標とする。論文講読を通じて理解を深めるとともに、日本語を中心とする韻律現象の分析事例を学びながら、音韻論的考察の方法について理解を深める。その理解に立って、実際の分析課題に受講者各自が取り組み、その成果を発表するとともに、相互の討議を通じて合理的な音韻分析・韻律分析のあり方について考察する。	西暦偶数年度開講。 0ABAG21と同一。 対面 対面を原則とするが、状況次第でオンライン(同時双方向)に変更することもある。
02DT911	形態論A	1	1.0	1・2						屈折形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るときに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同形性、補充、ゼロ形態等、屈折形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 0ABAG22と同一。 対面 人社A520
02DT912	形態論B	1	1.0	1・2						複合を含む派生形態論に関する研究史を概観し、それぞれの理論・モデルがどのような点において対立しているのかを見るときに、主要な問題・対立点について整理する。次に、同音異義性・類義性・多義性、阻止、項構造等、派生形態論研究における重要な用語・概念について、どのような言語現象の分析において問題になるのか具体的に検討し、各理論・モデルを用いた分析の利点・難点について考える。対象言語は日本語・英語を中心とするが、必要に応じて様々な言語を取り上げる。	西暦奇数年度開講。 0ABAG23と同一。 対面 人社A520
02DT913	音声学A	1	1.0	1・2						音声学・韻律に関する実験研究を紹介する。	西暦奇数年度開講。 0ABAG24と同一。 対面
02DT914	音声学B	1	1.0	1 - 5						音声学と他の言語学の分野とのインターフェースに注目し音声研究を行う。	西暦奇数年度開講。 0ABAG25と同一。 対面

02DT921	日本語文法論IA	1	1.0	1・2	春AB	金2		橋本 修, 石田 尊	現代日本語文法の文法カテゴリーについて、これまでの研究を踏まえ、さらにどのような課題があるか考察し、現代日本語文法の諸現象に関して、課題発見型のアプローチを行う能力を身につける。	西暦偶数年度開講。 0ABAG30と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DT922	日本語文法論IB	1	1.0	1・2	秋AB	金2		橋本 修, 石田 尊	現代日本語文法と言語の機能などがどのように関わるか、複合的な観点と応用的な観点から考察し、現代日本語の文法について様々な角度から、課題解決型のアプローチを行う能力を身につける。	西暦偶数年度開講。 0ABAG31と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DT923	日本語文法論IIA	1	1.0	1・2					日本語文法の記述的研究の方法論について学ぶとともに、理論的研究との関わりについて考察し、日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深める。	西暦奇数年度開講。 0ABAG32と同一。 対面
02DT924	日本語文法論IIB	2	1.0	1・2					現代日本語文法の諸現象に関する受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学び、データを観察、記述する能力を養う。具体的には、文法の記述と内省やコーパスの関係について考察した上で、格、フォース、テンス・アスペクト、修飾、とりたて、複文、モダリティなどの文法現象の中から課題を取り出し、それぞれの記述に関わる問題を明らかにした上で、受講者が設定した研究課題に関して議論を行う。	西暦奇数年度開講。 0ABAG33と同一。 対面 対面授業となった場合は人社A201
02DT927	日本語談話論A	1	1.0	1・2					本科目は、日本語の談話(話し言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「発話行為」「語りの構造」「会話の開始と終結」「スタイルシフト」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9,10回)。	西暦奇数年度開講。 0ABAG40と同一。 対面
02DT928	日本語談話論B	1	1.0	1・2					本科目は、日本語の談話(書き言葉)を対象に、分析に必要な理論や基礎的な概念を習得し、データを分析する力を身につけることを目標とする。さらに、分析により得られた知見を言語教育や隣接分野に応用するための視野を身につける。具体的には、「ジャンル」「文体」「結束性」「コロケーション」などの概念を、論文などを通じて最新の研究動向を踏まえて紹介する(第1回~第5回)。その上で、データ収集と分析の方法を提示し、受講者による実践を交えて理解を深める(第6回~第8回)。授業の最後には、日本語教育や国語教育、文法研究など隣接分野との関連を考え、ディスカッションを行う(第9,10回)。	西暦奇数年度開講。 0ABAG41と同一。 対面
02DT941	英語統語論A	2	1.0	1・2					近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方や研究手法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。具体的には、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介し、全員でディスカッションを行う。中心テーマは「機能語・機能範疇」とする。	西暦奇数年度開講。 0ABAG50と同一。 対面 人社棟A520
02DT942	英語統語論B	2	1.0	1・2					近年の英語統語論は生成文法理論の下で発展してきており、その考え方や研究手法はこれから言語研究を学ぶ者には基本となるものである。また、英語で書かれた著作を深く理解し、自分の考えを英語で発信していくための英語力も必須である。このような考えのもと、この科目では英語で書かれた統語論、理論言語学の著作・論文を読みながら、内容を適切に把握する訓練を行い、統語論研究の基礎知識と方法論を身につける演習を行う。具体的には、受講者が自分の専門分野に関わる英語論文を取り上げて紹介し、全員でディスカッションを行う。中心テーマは「英語と他言語との比較」とする。	西暦奇数年度開講。 0ABAG51と同一。 対面 人社棟A520

02DT943	英語意味論 A	2	1.0	1・2	春AB	月3		金谷 優, 和田 尚明	認知言語学や構文文法を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、形式と意味機能の対応関係や認知と比喩の関係を中心に扱い、主観性に基づく意味論を基にした分析方法について考察する。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。	西暦偶数年度開講。 OABAG54と同一。 対面
02DT944	英語意味論B	2	1.0	1・2	秋AB	月3		和田 尚明, 金谷 優	語用論研究や言語使用に関する日英語比較を中心とした、現代英語をめぐる様々な意味・語用論的アプローチの研究動向を探る。この授業では、特に、語用論・言語使用と意味機能の関係を扱い、代表的な意味論・語用論に関する理論についても触れる。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表内容を基に批判的検討を加え、授業参加者による討論を行なう。	西暦偶数年度開講。 OABAG55と同一。 対面
02DT951	ドイツ語学A	2	1.0	1・2	春AB	火2	人社 B505	大矢 俊明, 住大 恭康	現代ドイツ語の特徴を、語彙、文法ならびに語史の観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行う。	西暦偶数年度開講。 OABAG66と同一。 対面
02DT952	ドイツ語学B	2	1.0	1・2	秋AB	火2	人社 B505	大矢 俊明, 住大 恭康	現代ドイツ語の特徴を、意味論的ならびに語用論的観点から明らかにする。また、必要に応じて日本語や英語などとドイツ語を比較対照し、ドイツ語ないしゲルマン語が持つ個別的特徴と、人間言語が持つ普遍的特徴について、記述的、理論的ならびに通時的ないし歴史的な視点から考察を行うことになる。	西暦偶数年度開講。 OABAG67と同一。 対面
02DT961	中国語学A	1	1.0	1・2	春AB	木2		佐々木 勲人	中国語の文法研究に関する優れた論文を演習形式で読み進めながら、中国語の諸現象について考える。文法現象に表れた中国語の事態把握の特徴を他言語(主に日本語)との対照を通して検討する。中国各地の方言データも取り上げながら、標準語のみを対象とする従来の文法研究が看過してきた特徴を明らかにする。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法や分析手順を学ぶこともこの授業の目的の一つである。	西暦偶数年度開講。 OABAG70と同一。 対面
02DT962	中国語学B	2	1.0	1・2	秋AB	木2		佐々木 勲人	中国語文法研究をおこなううえで、必ず通読し理解しておくべき基礎文献を演習形式で読み進めていく。品詞分類、語順、主題、アスペクト、モダリティ、ヴォイス、ダイクシスなど中国語の個性が色濃く現れると思われるテーマを取り上げ、中国語文法研究に必要な最低限の知識を身に付けることを目指す。授業では、内容に対する正確な理解が求められるだけではなく、各自が批判的な視点を以て問題点・疑問点を見つけ出し、積極的に議論に参加することが求められる。	西暦偶数年度開講。 OABAG71と同一。 対面
02DT965	韓国語学A	2	1.0	1・2					現代韓国語の音韻、形態構造、語彙、文法、表現、統語などの言語分析の諸分野だけに限らず、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションなどの言語運用の諸分野まで、現代韓国語が持っている個性を概念的に考察する。また、日本語との対照を通して、言語の普遍性と個性をより深く理解する。	西暦奇数年度開講。 OABAG76と同一。 対面
02DT966	韓国語学B	2	1.0	1・2					言語表現の分析には、その表現がどのような「視点」を取りながら意味を表しているのかを考察する方法もある。例えば、日本語は話者・聴者・主体との関係で表現のスピーチレベルが決められる。反面、韓国語は話者と他者との関係でスピーチレベルが決められる。つまり、敬語表現において、日本語は移動的視点を持ち、韓国語は固定的視点を持っていると言える。現代韓国語の時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことばなどの表現類型から見られる視点を考察する。また、「感情・主観」の介入程度により視点がどのように変化するかを、対象になる表現の意味を具体的に分類しながら調べる。主テーマになる表現類型は、各年度別に選定する。	西暦奇数年度開講。 OABAG77と同一。 対面
02DT971	言語政策論A	1	1.0	1・2	春AB	火6		臼山 利信	ロシアや中央アジア諸国などの多民族・多言語社会を事例として、地位計画(言語の法的地位)、実体計画(標準語の整備)、普及計画(言語教育政策他)等の観点から各国の言語政策の現状と課題を検討・考察する。授業では、当該国の言語状況・言語政策に関する研究論文を取り上げ、論点を整理し、議論する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、言語政策研究の方法論や分析手法などについての理解も深める。	西暦偶数年度開講。 OABAG80と同一。

02DT972	言語政策論B	1	1.0	1・2	秋AB	火6		臼山 利信	世界(特に旧ソ連・旧東欧地域)の多民族・多言語国家の言語状況や言語政策に関する研究事例を通して、多言語社会における言語政策の役割について考察する。その上で、比較という観点から日本社会の言語状況・言語政策の実情と課題について検討する。また講義、学生の発表や議論などを通じて、社会に貢献する言語政策研究の研究対象としての新たな可能性を探求する。	西暦偶数年度開講。 OABAG81と同一。
02DT979	外国語教育学A	2	1.0	1・2	春AB	月6		小野 雄一, 矢澤 翔	本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤した第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に母語の転移と普遍的知識へのアクセスなどを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABAG96と同一。
02DT980	外国語教育学B	2	1.0	1・2	秋AB	月6		小野 雄一, 矢澤 翔	本授業では、言語能力や言語知識を考察対象とする言語学を基盤した第二言語習得研究の諸相について、特に文法習得、音声習得について概観する。習得が困難なもの、中間言語の発達、音声習得とその認知的手がかりなどを主に扱う。今学期は特に研究手法やデータ収集の仕方に関する内容を扱う。	西暦偶数年度開講。 OABAG97と同一。 対面
02DT981	言語情報論A	2	1.0	1・2	春AB	火1	3C104	和氣 愛仁, 小野 雄一, 石田 尊	言語研究を行うにあたって理解しておくべきICT(情報コミュニケーション技術)の基礎的な知識・技能の習得を目的とした演習を行う。	西暦偶数年度開講。 OABAGA0と同一。 対面 状況によってはオンライン(同時双方向)に変更の可能性がある。
02DT982	言語情報論B	2	1.0	1・2					言語研究をより深めるためのICT(情報コミュニケーション技術)活用法について、履修者の専門分野・問題意識に基づいた実践的な演習を行う。	西暦奇数年度開講。 OABAGA1と同一。 2024年度開講せず。 対面 状況によってはオンライン(同時双方向)に変更の可能性がある。